資料２

# 第２回　薬剤師のキャリアパスに関する懇談会　主なご意見

## １．薬剤師キャリアについて

- 製薬企業等における人材需要の実態等を把握した上で、創薬だけでなく薬剤師全体の需給や職域間偏在を考える必要がある。
- 各業界が必要とする人材像を積極的に発信すべき。
- 治験・臨床研究領域で薬剤師が不足している。
- 治験支援薬局制度などを活用し、薬局薬剤師も創薬に関与できるようにすべき。
- 製薬企業では薬学出身者に加え他学部出身者の活躍も進んでおり、創薬関連業務の専門化が進む中で求められる人材像の整理が必要。
- 企業関係者から品質保証分野における人材確保の課題が指摘されている。
- 薬剤師は承認薬だけでなく未承認薬も含めた薬物療法全体を担うべき。
- CRC や CRA など治験関連業務への関与も重要。
- 製薬企業における薬剤師数の減少について、学生の志向変化によるものか、企業側の採用ニーズの変化によるものか実態把握が必要。

## ２．研究力・創薬人材育成について

- 研究力は長期間取り組む中で醸成されるため、創薬人材育成には十分な研究時間の確保が不可欠。
- 薬学の強みは、患者との接点とレギュラトリーサイエンス教育にある。
- 基礎と臨床を対立させるのではなく融合して考えるべき。

## ３．大学院進学・博士人材育成・大学教育の在り方について

- 学生は知らない職業を選択できないため、創薬や治験、市販後安全対策など幅広いキャリアを教育段階で示す必要がある。
- 特定分野に強い薬学教育を認める仕組みが必要。
- 博士人材育成は卒前・卒後を通じて考える必要がある。
- 多様な専門性を持つ人材が共同研究する環境が重要。
- 博士課程を経た人材育成が重要であり、学位取得と薬剤師免許取得を両立できる仕組みも検討すべき。
- 博士人材を活躍させるキャリアパス整備が必要。
- 大学院進学者が増えれば創薬力向上につながる。インセンティブを可視化する必要がある。
- 学生に博士号取得後のキャリアやメリットが見えていない。
- ディプロマ・ポリシーを起点とした教育設計が必要。

## ４．卒後の研究力育成について

- 最大の課題は研究時間の不足であり、研究活動が業務として評価される仕組みが必要。
- 研究力育成を卒前だけでなく卒後も含めて考えるべき。
- 研究に没頭できる経験や環境の確保が重要。